

# 偕行社挨拶

## 1. 偕行社総会挨拶 (1997.10.12)

---

(佐々木注) 1997年10月12日作成

原題「偕行社総会」原文はA4版1ページ。

以下、原文をそのままにA4版に変換し、欄外にページを付与したもの。

## 偕行社総会挨拶

9. 10. 12

水交会の中村でございます。盛大な平成9年度総会誠におめでとうございます。本年もこうして大先輩の方々のますますお元気な顔を拝見し、また懐かしい皆様にお目にかかってお祝いを申上げる機会を頂き、誠に有難く存じます。

毎度感ずることではありますが、偕行社が全国組織と健全な財政基盤を確立され、後世に残す事業を含め、着々と諸事業を強力に推進し手おられますことは、私どものとても力及ばぬところでありまして、この機会にあらためて敬意を表し、今後とも一層のご活動をお祈り申し上げます。

ところで最近私の愕然としたことがあります。それは、本年度の遠航に参加した海上自衛隊実習幹部の一人が、ハワイのパンチポール国立墓地にお詣りした時の感想を記している中に、「――大昔の遺物というイメージしかない靖国神社や教育参考館に比べて、ここでは、あの戦争はついこの間の出来事であったのではなかろうか。私は自衛官となった現在においても、かつて日本国民総てが太平洋戦争という最大級の戦争の紛れもない第一の当事者であったという事実に対して、非常に希薄な意識しか持っていなかったということを痛切に感じた。五十五年前に日米の全国民が利害の不一致から敵味方に分れて戦った事実を、私はもう何百年も前のことのように考えていたことを奇しくもここで知ることができた」とあったからです。司馬遼太郎も、ある随筆の中で「生者は栄え、死者は忘れられる。明治も3年の頃には、幕末といえど遠い昔のように思われたらしい」と書いていますから、私たちにとっては昨日のことのように思われる戦争を、今の若い人が大昔のように思うのはやむを得ないとしても、国家国民のため一身を捧げ今日の繁栄の礎を築いた方々が、大昔の遺物となったのでは日本は救われなかったことでした。

今日の日本では、戦場であれ銃後であれ、当事者として祖国の急に全身全霊を擲った体験を持ち、或は掛替えのない肉親を国の大事に捧げた痛みを肌身に刻みつけた人々は、年とともにどんどん減り、それに代って東京裁判史観や観念的平和論を金科玉条とする教育やマスコミの論調の中で育った人々が社会の主流となりました。細川侵略発言以来の政府国会の謝罪声明や決議に続いて、今年最高裁判所でも玉串料支出の違憲判決が出ました。このような風潮の中で、自衛官があのような感想を持つことも無理からぬといえるかもしれません。

一方バブル崩壊後、私たちの目の前に続々展開された政官財各界の眼を覆うような醜態は、多くの心ある人たちに日本は亡国の道を進んでいるのではないかとの憂いを抱かせており、経済的繁栄の代償のように失ったものの貴重さが今更のように思われます。その中でも大きいものは、民族として国民としての誇りであり、また恥を知ると言うことではないでしょうか。そしてまた民主主義の基本とも言うべき、他人に迷惑をかけず、自ら責任をとるということは、少しも育たなかったような気がします。そして、今日の平和と繁栄を築くために護国の神とされた英霊に対する慰霊顕彰こそそれら総ての基本であるべきところ、あの違憲判決を怪しまない世の中の一般的風潮が、今日の病根を如実に語っているように思われてなりません。

言うまでもなくこの慰霊顕彰こそ、水交会の第一の目的でありまして、同じ目的をもつ偕行社の驥尾に付して、及ばずながら最善の努力を致す所存であります。

## 2. 偕行社新年賀詞交換会挨拶 (1998.01.08)

---

(佐々木注) 1998年1月4作成

原題「偕行社賀詞交換会挨拶」B5版1ページ。

以下、原文をそのままA4版に変換し、欄外にページを付与。

### 偕行社新年賀詞交換会挨拶

平成十年一月八日

偕行社の皆様、明けましておめでとうございます。陸軍始めのこの八日、お招きを賜って、原会長や大先輩の方々を始め会員の皆様と新しい年をことほぐ機会を与えて頂き、誠に有難く存じます。

政治経済社会など総ての面で八方塞がりの感じのする今日であればこそ、年の始めの明るい初笑いでは閉塞感を吹飛ばしたいところでございまして、心の通じ合う何十年前からの仲間同士の会合は格別に意義のあることと存じます。

ところで一昔か二昔前には、世界で一番幸せな男は、アメリカのサラリーを貰い、日本人の妻とともに、イギリスの豪邸に住んで中国のご馳走を食べる人といわれ、これが一つ食違って、中国のサラリーでアメリカ人の妻と日本のウサギ小屋に住みイギリス料理を食べるとなると大変だと笑ったものでありました。それが今日では、各国の国情をからかうジョークもこんなものになっているとかいないとか。「人が喋っているのを聞けば、何処の国でおぎゃあと言ったか直ぐ判る。自分の国が何でも世界一でなければ承知しない奴、そいつはアメリカ人だ。イギリスを褒め称えていたら、そいつはイギリス人だろう。日本の悪口を言っている奴、そいつは韓国人でなければ日本人だ」。

細川侵略発言以来の政府国会の謝罪声明は言わずもがな、子供に教える歴史教科書問題一つをとってもこのジョークは心に堪えます。

珊瑚海海戦で戦死された翔鶴飛行隊長の高橋赫一大佐は「俺達はただ黙って戦い黙って死ねばよい、後のことは国家国民が知っている」と言い遺されたそうですが、このように信じ、命を賭して戦い、国を守ろうとした至純の思いと、今日の国情を思い合わせるとき本当に胸の痛いことでもあります。私どもはこのような英霊に対する慰霊顕彰とともに、本当の慰霊顕彰は、日本の精神的再建特に道義の再建にあることを思い、覚悟を新たにした新年でございました。

なにとぞ本年もよろしくご指導賜りますようお願い申しあげ、偕行社のますますの発展充実と会員皆様のご健勝を祈ってご挨拶と致します。